

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700345		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら嵯峨嵐山(弥生)		
所在地	京都市右京区嵯峨新宮町51-3		
自己評価作成日	令和3年8月31日	評価結果市町村受理日	令和4年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosovoCd=2690700345-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1「ひと・まち交流館京都」1F
訪問調査日	令和3年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設での生活は、なるべく今まで送ってこられた生活に近くなるように家事など、お手伝いいただける場所はお手伝いいただいております。食事は、基本施設での手作りでの提供をしています。食事のメニューをご利用様と一緒に考え、出前などではご利用者も選べるよう工夫しています。また、ご利用者様の今までのライフスタイルや役割、残存能力維持のために、掃除や調理など家事全般できることを一緒にいただいております。当施設の概念として、ご利用者様主体の生活がいつまでもご利用者様と共に継続して行えることが出来るよう、日々業務の見直しを行い、ご利用者様のニーズに応えられるよう努力をしています。本年度もコロナウイルス感染予防の為、地域の方との交流や外出支援が出来ませんでしたが、施設内の畑の収穫や、施設周りの散歩などを取り入れ、外の空気を吸ってもらいながら気分転換を図っていただいております。また、月1回、社内研修を行い、スキルアップを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームきらら嵯峨嵐山」は設立後2年8か月という短期間の間に地域との連携を深め、ともに歩んでこられました。コロナ禍による外部交流の難しさに留意しつつも、緊急事態宣言解除後のコロナ患者の激減した頃を見計らい、思い切って「介護フェス」を開催し、地域の方々約100名との交流を果たしました。福祉用具体験会、子どもたち向けには職員手作りの福祉絵本や遊具などを用意し、移動パン店の出店なども大好評でした。また普段から利用者が自ら選べる支援を心がけ、食事の献立も利用者と一緒に決め、ご当地メニューの取り寄せや出前、家庭的な弁当店の利用、自家菜園の野菜の賞味など様々な変化を楽しめるように工夫をされています。サプライズの超特大ケーキに驚く利用者の笑顔は職員の喜びです。筋力低下へのご家族の心配の声に応え、マッサージ回数や体操を増やし、普段より少し遠いところに散歩に出かけています。さらにご家族との交流が途絶えないようオンラインやガラス越し面会を実施しています。今後はコロナ関連の動向を考慮しつつ直接の面会も再開する予定で、良いと思ったことは即実行に移す有言実行型の事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念に取り込まれており、共有している。 毎朝の朝礼時唱和している。	企業理念「人の心を大切にし、ふれあいを通じて笑顔、安らぎ、喜びを提供します」及び三つの運営理念を毎朝朝礼時に当日出勤の職員が唱和している。ホーム長は全体会議のはじめに理念に基づいた実践ができるよう全職員への周知を図り、認識を新たにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から定期的にヤクルトやお米屋さんが米などを持ってきてくれるなどの交流している。新型コロナウイルスの影響にて、日常的に交流ができていないが、納涼祭の際は近隣の子供にお菓子配布するなどの交流は行っている。	コロナ禍で地域活動は停滞気味であったが、感染者数が減った11月初旬に地域向けに“介護フェスタ”を開催し介護相談、職員の手作り紙芝居や縁日コーナー、パン屋さんなどで賑わった。12月にも事業所の庭に200個のキャンドルとイルミネーションの“キャンドルナイト”を企画し地域の方にも見ていただく予定である。新型コロナの動向を見ながら従来のような関係性を保ちたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域サロンを活用し、来てくださる方に認知症の知識の説明等を行っていたが、新型コロナウイルスの影響もあり、現在地域の方に発信が口頭では出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響もあり、2月と10月以外は会議が開催できず、書面で発信している。2月と10月は、感染対策を実施しながら会議を開催し、そこでの意見を議事録にも載せ、玄関に共有できるように置いている	新型コロナの影響で運営推進会議は書面開催が多い。利用状況、行事報告、ヒヤリハット、事故・クレーム報告、身体拘束廃止委員会報告の他、以前の外部評価を受け、ヒヤリハットの内容説明や、ご家族への事前照会により意見を募るなどして会議内容に工夫と進展が見られる。	紙面開催の前にご家族からアンケートを取り、事業所としての見解をご家族に返しておられます。要望に対して対応ができない場合は「できません」ではなく、同時に代替案も示される方がより丁寧と思われれます。ご一考願います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方は、運営推進会議開催時は参加いただいている。また民生委員の方や町会長にも参加をお声掛けしている	以前は運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、右京区主催の会議にも参加するなどして交流していたがこのところ交流は少なく、事故の届や介護認定の調査立ち合いなどで関わっている。コロナ禍でZOOMでの会議が多くなり、事業所にその環境がないため各種会議に参加できていない。	区や地域包括支援センター主催の会議に参加できない場合は資料をいただき会議内容を把握するなどしてコロナ禍であっても右京区内での多職種・他事業所間連携を維持する工夫が望まれます。

京都府 グループホームきらら嵯峨嵐山(弥生)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実績はない。2カ月に1回、管理者、リーダー、計画作成にて構成される「身体拘束廃止委員会」を実施し、運営推進会議で報告を行っている。職員全員には研修を行っている。	「身体拘束適正化のための指針」を整備し事業所内で委員会を開催し、年2回QM(クオリティマネジャー)による職員研修を実施し、全職員が法人本部にレポートを提出している。また他事業所で虐待事例が発生した場合は緊急で委員会を開催し法人全体での検討体制を取っている。センサーマット使用は家族の希望もあり2例あるが委員会で協議の上見守りと位置づけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、職員同士関わり方をユニット会議で話し合い、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、同意の捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお手紙送付時にアンケートや意見箱を設置し、ご家族からの意見など反映できる仕組みづくりを行っている。	オンライン面会、ガラス越し面会などで利用者と家族のコミュニケーション支援をしているが、その時には家族からの意見は聞き取れない。運営推進会議前にアンケートや電話などで家族の意見をうかがい、食事・おやつメニュー表の送付や行事や運動不足解消などの要望を把握し対策を取っている。利用者からも食事やしたいことなどを普段から聞き取り迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議及びユニット会議にて話し合う場を作っている。 意見や提案を反映する機会を設けている。	日頃から話し易い環境づくりをしているので事務所に来て管理者に直接話す方も居られる。また、定例会議や定期的個別面談でも意見を述べる機会がある。マンネリ化を防ぐために食事やおやつ、レクリエーション等への活発な提言もある。ご当地おやつや、海外のおやつのお菓子屋なども好評であった。自分や自分の父母や祖父母ならこんなことをしてほしいのではないかとという思いで職員はアイデアを発信している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年考課制度を活用しており、ボーナスや給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTシートの活用及び社内研修の実施に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議及びケアマネ連絡会などへ参加し、事例共有や勉強会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でのご様子やご家族様や担当ケアマネージャーからの情報や利用前情報シートを基にアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居前情報を通じ、ケアプランに反映させて同意をいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に買い物や献立を考えたり、調理方法を教えて頂くなど食事の準備や洗濯、掃除なども世間話をしながら、楽しい雰囲気で行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の手紙にて近況報告を行い、生活の様子や健康状態など把握して頂き、ご本人の生活歴や性格など伺いながら、今後の暮らしについて一緒に考えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響もあり、感染対策をしながら、馴染みの方などの面会を実施していたが、面会禁止になってからは、面会は実施できていない。代わりにリモート面会や玄関でのガラス越しの面会など、声が聴けるような時間を作ったりしている。	コロナ禍以降はリスクを考え、外部の美容院ではなく、楽しく利用者を和ませてくれる特定の理・美容師に来てもらっている。家族との電話やリモート面会などの支援、家族の用意した便箋で手紙の支援もしている。近隣散歩にはほぼ毎日出かけ、庭で育てる野菜の成長を楽しみにされている方もいる。将棋・編み物・クロスワードなど本人の適性や生活歴を考慮し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や共通点を考慮し、楽しい気持ちで交流し、お互いを思い合えるような関係が作れるように橋渡しを行っている。また、トラブルになりそうな時は間に入り、話題を変えたり、それぞれの話を傾聴している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されたご家族と、必要に応じて連絡をとり、終了後の経過を伺い出来る限りの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接、どのような暮らしを望んでいるか？伺ったり、日頃の会話や言動から気づいた事などより、職員間で情報共有を行い、本人本位に検討している。	本人や家族から生活歴や好きなことや意見等を聞き出し支援に生かしている。コミュニケーションが難しい方は表情から汲み取っている。朝礼やフロアミーティングなどでも話題にし職員間で気づきを共有しているが、記録として残していない。センター方式のアセスメントシートの記入を家族に依頼し徐々に取りまとめアセスメントの充実を図っている。	経過記録には体温・排泄・食事量などの介護記録はありますが利用者の言動に着目した記録が希少です。本人の言葉や心の振れ、職員の気づきを口頭で共有するだけではなく記録として残されるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、生活歴や昔のなじみなどの把握を行いケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを通じて本人様の生活ペースを考えケアに生かしている。		

京都府 グループホームきらら嵯峨嵐山(弥生)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて状態の変化に伴う課題やケアのあり方について意見を出し合い、ご家族の面会時にも入居前の暮らしやご本人や家族が望まれている事、アイデアについて伺い、ケアプランに反映している。	主治医、訪問看護師など多職種の役割を明確にし、本人・家族等の意見を尊重した介護計画を作成している。介護職は介護計画の実践状況を○△×の三段階で毎日評価し、計画作成者は介護職の評価を毎月と6か月単位で集計し達成度を数値化し次の計画作成に生かしている。急性増悪、退院時、認定更新時などに6か月を待たず介護計画を変更する場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、記録を確認しながら、気づきや課題について情報共有を行い、それを基に担当者会議にて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関などとも連携し、多様なサービスを活用できる様に調整している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントに出かけたり買い物同行を行うことは、新型コロナウイルスの影響もあり、難しいが、ユニット内で、調理や洗濯など、本人がその人らしく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医もしくは本人や家族の希望する病院にて受診できる様支援している。	以前は入居前からの主治医に家族と通院される方もあったが、コロナ禍以降家族の希望もあり、外出時の感染リスクを避けるため、全員同じクリニックから月2回の訪問診療を受けている。また同クリニックから精神科医の訪問診療もある。訪問看護ステーションによる毎週の訪問、月1回の訪問歯科、週1回の歯科衛生士、マッサージ師の来所などにより健康管理がなされている。	

京都府 グループホームきらら嵯峨嵐山(弥生)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師と常に連絡を取り合い、適切に受診対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院と連携しカンファレンスを行うなどスムーズな連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針を作成し共有している。家族、医療機関と必要に応じて連絡を取り、本人の状態、家族の要望などを踏まえて施設での看取りか医療機関につなげている。	「重度化した場合の対応・終末期(看取り)に係る指針」に沿って、看取りを希望される方には何度も意思確認をして医療連携のもとで看取り計画を立て看取る体制がある。この1年は医療機関に繋げた例があり、当ユニットでの看取り例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備えており、救急車の呼び方など定期的に訓練を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	前年度までは年2回実施していた避難訓練に本年度よりは水害想定避難訓練を増やして年3回実施。地域の方と合同の避難訓練も検討していたが、新型コロナウイルス感染予防の為、収束後にできればと考えている。	年2回の防火・防災訓練のうち1回は夜間想定でおこない、水害対策として二階への垂直避難訓練を実施している。コロナ禍により消防署の立ち合いはない。帰宅困難者用リュック5個、防災セット30個が法人の本社から支給されている。水・缶詰・各種パウチの保存食を備蓄とし米や衛生用品は日頃から多めに仕入れている。有事の事業継続計画は作成していない。	最近は様々な災害が多発しています。災害時でも利用者の生活が出来る限り安心・安全に継続されるよう事業継続計画(BCP)のマニュアル作成やそれを踏まえた訓練をお勧めします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の性格や生活歴の情報共有を行い、その方に合わせ、プライバシーを損ねないような声掛けを心掛けている。	プライバシー・接遇・コミュニケーション技法の研修が定期的に行われ、各職員はホーム長に研修報告書をあげている。不参加の職員は資料をもとにレポートを提出している。日頃は入室時ノックや声掛け、トイレの開放、排泄に関する職員連絡などにも気を付け、食べこぼしの多い方には目立たないように家庭用エプロンで衣類の汚れを防いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でご本人より希望を聞き取ったり、言動や表情で思いを感じ取り、職員間で情報共有を行い、自己決定できるようにわかりやすく説明し、選択して頂くなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞きながら、体調や天候などに合わせ、その日の過ごし方を一緒に考え、可能な限り希望に沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の好みの服を選んで頂いたり、髪型や化粧品の使用などおしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に好みを伺い、献立を考えている。メニュー内に苦手な物がある場合はその方のメニューを変更し対応している。また、調理や配膳、片付けなどもその方の能力に応じて行って頂けるよう支援している。	リビングの日本地図にご当地メニューを貼り、鰻やきりたんぼなどを取り寄せて楽しんでいる。外国出身の方に母国料理を披露してもらったり、名店のコロッケや家庭的な弁当、寿司、和フレンチ懐石の出前など趣向を凝らしている。普段や誕生日など特別な日も利用者の好きなものを聞き要望に応じている。テーブル拭きや下膳、食器洗いなどのできる方は職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を観察し記録に記載している。本人様に応じた分量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。		

京都府 グループホームきらら嵯峨嵐山(弥生)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しつつ、声掛けや誘導を行い記録にて共有している。	今までのデータを見ながら適時に声掛けをして日中はできるだけトイレでの排泄を支援している。重度化により夜間はオムツ対応の方が多く、利用者や家族と相談の上安眠重視か保清重視かを把握し、その方に合わせてオムツや夜用パットの交換、トイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消に向けてヤクルトなどの提供など自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度生活リズムを作るために時間を合わせて入浴介助を行うが、本人要望により前後できるよう調整している。	週2回ほぼ午前中の中の入浴となっているが、夏などに追加でシャワー対応をすることもあ。入浴時職員が静かに寄り添い、落ち着いて入浴できるように支援している。お湯と足拭きマットは一人ずつ交換し、季節のゆず湯や入浴剤も使い、希望者には同性介助でリラックスしてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を家族などから聞き取り、現在の健康状態に合わせて、休息や安心して眠れるように声掛けや環境整備など支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤は薬局で管理し、職員の介助により確実に服薬できる様支援している。 薬局からの薬事情報は、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴を知り、その方にとっての喜びや力を活かした役割を検討し、生きがいをもって暮らして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり、外出の機会は設けられないが、ご当地のメニューを毎月皆さんに伺い、旅行気分を味わっていただくなどの支援をしている。	コロナ禍により外出機会は減ったが、少し多めの近隣散歩や庭の畑での野菜作り、収穫などを楽しんだり、洗濯物を干したり取り込んだりすることでなるべく外気に触れる機会を設けている。また運動不足にならないようパタカラ体操、NHK健康体操をおこなっている。コロナ禍がやや落ち着いたらドライブに行く計画を立て、本社に打診中である。	

京都府 グループホームきらら嵯峨嵐山(弥生)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度の制限はあるが、必要に応じて個人で金銭を所持している方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をリビングに設置し、希望に応じて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間を活用し、落ち着けるような雰囲気づくりを心掛けている。	利用者・職員合作の貼り絵やカレンダー、季節の額縁でリビング壁面を飾り、テレビ横の観葉植物などが室内に落ち着きをもたらしている。車椅子の方が3~4名おられ、可動域を広く取るためにソファはクリスマス飾りの台座にして隅に置いている。南北の大窓からの採光は良く、室内は清潔で3台の空気清浄機を稼働させ換気や滅菌をしている。静けさを好む方が多くテレビや音楽は控えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室対応でもあり、休息の時間は居室で過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使い慣れたものや、使い慣れた家具を入れていただくよう支援している。	居室入口には名札と誕生会の時の職員からのメッセージが貼ってあり、室内はエアコン、防災カーテン、クローゼット等が備わっている。ベッドや寝具は各自で用意しレンタルベッドを借りる方や布団敷きの和風の設えで過ごされる方もある。写真、テレビや小物類は利用者の好みで自由に配置している。事業所周辺は道路や水田が広がり居室は明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やトイレの場所などわかりやすいように工夫している。		